

経営比較分析表（平成29年度決算）

埼玉県 東秩父村

| 業務名 | 業種名 | 事業名 | 類似団体区分 | 管理者の情報 |
|-----------|-------------|--------|--------------------------------|--------|
| 法非適用 | 水道事業 | 簡易水道事業 | D3 | 非設置 |
| 資金不足比率(%) | 自己資本構成比率(%) | 普及率(%) | 1か月20m ³ 当たり家庭料金(円) | |
| - | 該当数値なし | 97.92 | 2,894 | |

| 人口(人) | 面積(km ²) | 人口密度(人/km ²) |
|-----------|--------------------------|----------------------------|
| 2,910 | 37.06 | 78.52 |
| 現在給水人口(人) | 給水区域面積(km ²) | 給水人口密度(人/km ²) |
| 2,823 | 9.37 | 301.28 |

| グラフ凡例 | |
|-------|--------------|
| ■ | 当該団体値（当該値） |
| — | 類似団体平均値（平均値） |
| 【 | 平成29年度全国平均 |

1. 経営の健全性・効率性



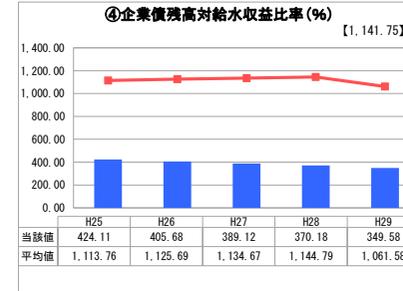
「単年度の収支」



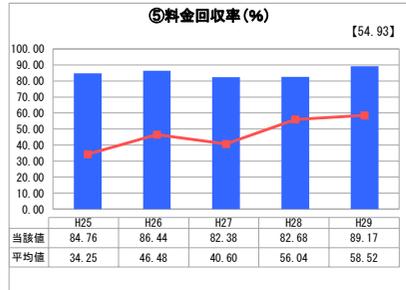
「累積欠損」



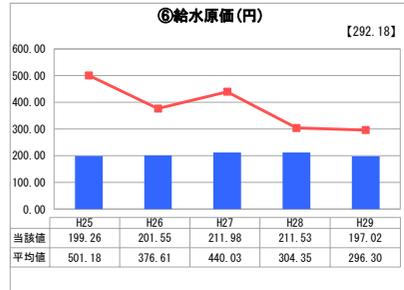
「支払能力」



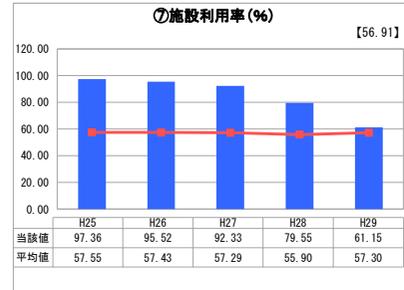
「債務残高」



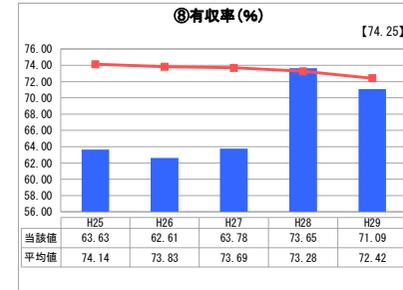
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

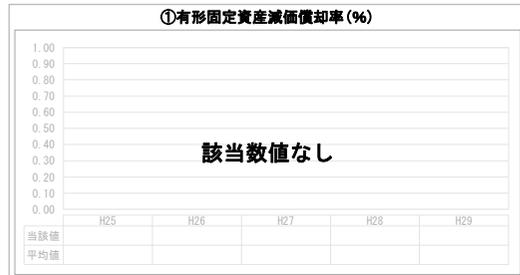


「施設の効率性」



「供給した配水量の効率性」

2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

収益的収支比率において、本村は黒字経営ですが、給水収益の減少、老朽施設の修繕更新等の費用増大により経営状態は厳しくなっています。また一般会計繰入金の依存が高く、料金回収率が100%を下回っているため適切な料金収入の確保が必要です。

企業債残高対給水収益比率については、ここ数年は借入をしておらず、毎年減少傾向にありますが、今後、老朽化施設の更新等により、企業債残高が増大する可能性があるため投資規模、料金水準が適切かを見極めていく必要があります。

また、給水原価も類似団体よりは低いですが、今後老朽化施設の更新等があるため、給水原価の高騰が予想され、料金の安定的確保が必要です。

施設利用率が60%台と減少傾向にあり、有収率は類似団体の平均値近くを示しています。施設の現状分析や将来の給水人口等を踏まえ、適切な施設規模にするため、統廃合やダウンサイジングの検討を行う必要があります。また、引き続き漏水等を計画的に改善し、有収率の向上を図らなければなりません。

2. 老朽化の状況について

管路更新については、類似団体平均値を下回ってしまったが、平成29年度は増加傾向にあるため引き続き、毎年更新率が低くならないよう更新を実施していく必要があります。

水道施設も老朽化しており、更新時期を迎えるので、施設の統廃合、管路の適正化等を考慮し、効率的に実施していく必要があります。

全体総括

各指標の値を類似団体と比較すると、良好な指標は多いですが、老朽化、耐震化等の施設の更新費用が増大することが今後、見込まれます。

今後も健全な事業運営を継続していくために、効率的な施設整備等の更新を進めていかなければなりません。本村は、自己水源で水を供給していかねばならないため、事業の分析・評価・課題抽出を行い、中長期的な視点にたった安定した水道事業の運営をしていく必要があります。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。